

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com 2009年9月号(No.109)

電子出版・電子カタログの動向②

－電子書籍・電子カタログ普及のための課題・技術動向－

今回は、「電子出版・カタログの動向②」として、「電子書籍・電子カタログ普及のための課題・技術動向」についてです。今年7月国際ブックフェアに併設して行われたデジタルパブリッシングフェア（以下「フェア」）展示会のレポートを含め、いくつかの最新動向をまとめてみました。

■電子書籍閲覧のための端末機器の動向

(1) 電子書籍閲覧用の端末機器としては、専用端末、電子辞書、携帯電話、携帯ゲーム機、パソコンがあります。この中で通信機能、課金制度、端末と三拍子揃って最も普及が進んでいるのが携帯電話です。最近では、iPhone など閲覧に適した大きめの画面を持つ機種も増えてきています。

電子辞書も電子書籍に先んじて普及しつつあり、メモリーカードで外部からデータを取り込んで読むことのできる機種では、電子書籍に近い利用方法が可能となっています。

(2) 最近話題になっているのが、専用端末の動向です。米国では、ネット書籍販売大手のアマゾンが30万タイトルの eBook と合わせて、専用端末「キンドル」を投入したことにより、電子書籍が本格的な普及期を迎えつつあります。アップルやソニーも専用端末を投入、グーグルによる書籍の電子化含め、市場争奪をめぐる激しい覇権争いが展開されています。下記ページもご参照ください。

<http://it.nikkei.co.jp/internet/news/index.aspx?n=MMITbo000010092009&landing=Next>

日本では、ソニーやパナソニックが専用端末を投入してきましたが、通信機能がない、コンテンツが少ない、端末の価格が高いなどの理由で普及せず、製造終了となっています。今年になってアマゾンの「キンドル」普及に刺激されて、日本独自の専用端末を開発する構想が浮上してきています。8月の「雑誌コンテンツデジタル化促進コンソーシアム」設立総会では、「キンドル対抗機を作ろう」と多くの電機メーカーが参加しました。

7月のフェアでは、富士通フロンテックが画面にカラー電子ペーパーを採用し、通信機能も備えた専用端末を展示していました。

■デジタルコンテンツと課金システム・著作権管理

(1) デジタルコンテンツの内、従来の印刷物に相当するものには、電子書籍、コミック、写真集など「売り物」にするものと、電子カタログ、チラシなど「売りたいものを宣伝する物」があります。「売り物」では、課金システム、著作権管理の整備が必要になります。

(2) 携帯電話では、NTTドコモ、au、ソフトバンクモバイルなどにコンテンツを提供すれば、料金徴収を代行してくれる「キャリア課金制度」があり、このことが携帯向け電子書籍普及の大きな理由になっています。

また、出版社独自の課金システムとは別に、パピレス、デジブックジャパン、モバイルブック・ジェーピー、ビットウエイなど電子書籍運営サイト・取次サービスも整備されてきており、電子書籍の課金システムは整ってきているといえます。

(2) デジタルコンテンツ・書籍の著作権管理については、二つの問題があります。

一つは、コンテンツの電子化権の問題です。電子書籍に関わる権利関係は大変複雑で、ケースバイケースでの著作権者との対応が必要になります。日本電子出版協会でも「著作権委員会」を設けて研究・検討を進めて

いますが、この問題では下記ページも参考になると思います。

「電子出版流通からみた権利処理の問題」(三瓶 徹氏)

<http://www.super-contents.co.jp/business3.htm>

もう一つは著作権保護の問題です。コンテンツを何のプロテクトもなしにネットに掲載すれば、無断複製や不正利用など著作権のコントロールがきかなくなるという問題が生じます。このためデジタルコンテンツを特定の機器以外では再生できなくすること、第三者による複製や再利用を防止するデジタル著作権管理システム(DRM)が開発されています。

フェアでは、PDF や FLASH などデジタルコンテンツのコピーや画面キャプチャーの防止だけでなく、閲覧の日数・回数、印刷部数の制限も付けられるアイドック社の「KeyringPDF」「KeyringFLASH」の展示とデモが行われていました。下記ページもご参照ください。

<http://www.keyring.net/>

■電子書籍・電子カタログ作成ツール

(1)携帯電話向けなどの電子書籍作成ツールとしては、セルシス、ボイジャー社の「コミックスタディオ」「ドットブックビルダー」やシャープの「XMDFビルダー」などがフェアで紹介されていました。

印刷用に生成された PDF から Web 閲覧用の電子ブック・カタログが作成できるツールも数多く出展されていました。

(2)当社では会社案内、パンフレット・カタログ、社内報や書籍の一部を電子ブックとして見せる「立ち読みページ」の作成など、お客様の付加価値・サービス向上のためにスターティア・ラボ(株)の電子ブック・カタログ作成ツール「ActiBook」を 8 月に導入しました。

「ActiBook」で作成した電子ブック・電子カタログでは、ページをめくりながら読むことができ、全ページのサムネイル・目次の表示やブック内検索もでき、従来の PDF での表示と比べ大幅に付加価値が向上します。

当社ホームページに、当社の技術・ソリューションを紹介した「システムガイド」の電子ブック版を掲載していますので、下記ページもご参照ください。

<http://www.sanbi.co.jp/sanbihp/info/info03.html>

なお、電子ブック閲覧には「AdobeFlashPlayer」の最新版が必要となりますので、Flash がない場合もしくはバージョンが古い場合は下記ページからダウンロードしてください。

<http://get.adobe.com/jp/flashplayer/>

【発行】2009年8月28日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-16-7 TEL : 03-3805-7675

URL : <http://www.sanbi.co.jp>